

I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を十分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心を持ち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの実態に沿って指導計画の見直しを行い、教育保育の質の向上を図る。また、本園の特色である科学あそびを更に充実させていくことを重点項目とする。

III. 評価項目の達成及び取り組み

	評価項目	評価	取り組み
1	子どもの実態を把握し、生活やあそびの充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者間の話し合いや日々の反省の記録を参考にし、子ども一人ひとりの幼児理解に努めた。 ・一人ひとりが自己を発揮し、あそびを通して様々な経験を重ねられるような環境の構成に取り組んだ。
2	規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の中で、基本的な生活習慣を繰り返し指導し自立を促した。 ・保護者の子育て観を受け止めながら、発達や成長に見通しをもつことができるように家庭と協力し進めるため保護者との連携を密にした。
3	教師の資質向上のために、全職員が年1回以上の園内研修を行う。また、外部の様々な研修会や研究会に積極的に参加し、内容報告・資料提供をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・科学あそび(園内研修)では、公開クラスの保育がより良いものとなるよう、学年ごとにリレー方式で課題に取り組んだ。子どもたちが好奇心を膨らませ豊かな感性が育まれるよう、反省を生かし保育の再構成に努めた。 ・保育園とリトル園でも、園内研修を行った。 ・反省会で子どもの育ちをどのように読み取るかを保育者間で意見を出し合い、子ども理解や育ちの見通しを得ることができた。 ・年間外部研修計画により、全職員が役割に合わせた研修に参加した。参加者が報告書にまとめた学びを保育者間で共有するよう努めていきたい。

S：十分に成果があった A：成果があった B：少し成果があった C：成果がなかった

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資の向上のため教育保育を振り返り、園全体で取り組むべき課題を認識して改善していくように努力する。

V. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・常に教育保育の資の向上を図る必要があること、乳幼児の学びは環境（人的、物的、社会的、自然）との出会いから生まれることから、育ちに必要な経験を重ねていくことができるよう、保育内容を見直し検討する。 ・発達の特徴を踏まえ、あそびを通して個の成長と集団としての活動の充実を図る。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我や事故につながる危険な物事を除去することで子どもの安全を守るとともに、子どもに安全生活の習慣や態度を身に付けさせ、安全に気を付けて行動できるよう指導する。 ・ヒヤリハットを活用し情報を共有することで、事故防止に繋げ安全対策を図る。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が子どもたちの心と体の健やかな成長のために課題意識をもち、工夫しながら保育に取り組む姿勢が伝わってきました。今後も、細かく子どもたちを見守る眼、保護者とのコミュニケーションを大切に、日々努力してほしいと思います。